

令和5年度栄養管理連携パス構築ワーキング会議（2024年3月5日実施）

		n	%
施設種別	病院	5	29.4%
	地域包括支援センター	4	23.5%
	老人福祉施設	3	17.6%
	介護老人保健施設	2	11.8%
	居宅介護支援事業所	2	11.8%
	その他	1	5.9%
職種	管理栄養士・栄養士	10	58.8%
	ケアマネジャー	4	23.5%
	看護師	2	11.8%
	保健師	1	5.9%
1-1令和5年度の中和保健所の取組から在宅で食支援を行う上での課題が理解できましたか。	理解できた	5	29.4%
	まあ理解できた	12	70.6%
	あまり理解できなかった	0	0.0%
	理解できなかった	0	0.0%
2-1栄養ケアステーションの取組について理解できましたか。	理解できた	5	29.4%
	まあ理解できた	12	70.6%
	あまり理解できなかった	0	0.0%
	理解できなかった	0	0.0%
2-2在宅介入を行う際の課題が理解できましたか。	理解できた	4	23.5%
	まあ理解できた	12	70.6%
	あまり理解できなかった	1	5.9%
	理解できなかった	0	0.0%
3-1GW関係機関で在宅における食支援を行う際の課題を共有することができましたか。	そう思う	6	35.3%
	ややそう思う	11	64.7%
	あまりそう思わない	0	0.0%
	そう思わない	0	0.0%
3-2GW関係機関で在宅における食支援を行う際の対応方法を共有することができましたか。	そう思う	3	17.6%
	ややそう思う	14	82.4%
	あまりそう思わない	0	0.0%
	そう思わない	0	0.0%

他職種との関わりに関すること	他職種の方との研修に参加する事が普段ないので、様々なご意見をおききする事が出来て勉強になりました。ありがとうございました。
	課題が多い中少しずつ前進できているのかなと感じました。NS、CMとお話できて、全くケアステーション認知されていない事痛感しました!
栄養ケアステーションに関すること	栄養ケア・ステーションと栄養サマリーの周知をお願いします。医師会、訪問看護、ケアマネジャー等
	栄養ケア・ステーションの実態をもっと詳細に学習したい。また、ケアステーションをどの様に病院やクリニックに普及できるか方法が知りたい。
	栄養ケアステーションの推進が必要と感じたが、まだ理解できていない部分があり、また個別に質問できるかな。
グループワークに関すること	他職種でのグループワークはそれぞれの課題を理解できて、非常に良かったです。自施設に足りない、課題もたくさん見つかりました。
	グループワークの時間がもう少しほしかったなと思いました。
	他職種の方と話ができて有意義なグループワークになりました。栄養ケアステーションのことも初めて知り利用者様に還元したいと思いました。
	栄養士の方全般の意識の底上げのための取り組みが必要。どんな専門職でもその専門性を生かす、役割を果たす義務があると思う。栄養士個人の力でどうにもならないので、研修の義務化なども必要では?栄養士のみでなく、関わる職種全てが栄養について理解を深める機会が必要。★話し合いGWの内容全てムリでした。テーマひとつに対してじっくり検討するGWが望ましいと思います。

	班	病院	クリニック	保健所	高齢者施設	市町村	栄養士会	栄養ケア・ステーション	居宅介護支援事業所	地域包括支援センター	訪問看護ステーション	本人	家族	不明		
自 施 設 で 取 り 組 め る こ と	A	退院時に栄養サマリーを提供する			ショートステイ、デイサービス利用者の方（食事形態や療養食の方）に施設ケアマネを通して情報を提供する。		栄養士会、栄養ケア・ステーションで訪問指導を受けられる事の周知（特に医師会）		利用者の食生活に目をむけてゆく栄養	市町村間でのルール作りや差をつけない						
		より具体的な栄養指導を在宅でもできるように実施していく			ショートステイ、デイサービス利用者の方に料理レクを企画実施する。		訪問栄養指導のできる管理栄養士の育成		栄養ケア・ステーションを知る（連携できるよう）	栄養を重視することでどのようなメリットが生まれるのか市民向けの講習会をひらく						
		栄養指導内容を在宅の支援者にも伝達する						栄養士会から医師会やケアマネ協会等に栄養管理必要性の周知		栄養の情報をもらえるように伝えていく	対象となる方が無料で試せる様、市として対策する（募集する）					
		訪問栄養指導のできる医療機関であることを周知していく									管理栄養士の居宅療養管理指導への介入方法を明確にする					
											医療機関への働きかけ					
	B (推測)	栄養サマリートの院内スタッフへの認知				退所指導時にできるだけ詳しく情報提供できるようにする				管理栄養士にまずどんなことでもいいので相談してみる	サービス担当者会議に参加する					
		医師や多職種へ栄養管理の必要性を伝える				栄養サマリートの依頼があれば作成する				栄養士に対しての相談ができる機関を知る						
		退院時栄養サマリートの記入				地域住民へ栄養士がいることを認知していただく										
		退院前ccに参加する				栄養に対する情報をいただく（依頼）										
	C	他院との情報共有	医師会連絡会議で栄養ケア・ステーションの周知			デイサービス・ショートを利用することで調理の負担、食事のかたよりが回避される。				ケアマネ連絡会で栄養管理の重要性について研修	行政に働きかけ、栄養指導推進					
		MSWへの連携と学習会									通いの場（いき百、老人会、サロン）でのチェックリスト活用、栄養アセスメント					
		入院中の栄養指導において栄養管理の必要性を患者・家族にしっかり伝える（患者自身に栄養の必要性が理解されていない・・・を受けて）										ENT患者（利用者）とCM双方の聞き取り				
		多職種へ栄養の必要性をアピール。ミールラウンド時、日頃の様子をききとり。														
		退院カンファへの参加														
	他 施 設 に 取 り 組 ん で ほ し い こ と	A	栄養ノートなどを作って頂き、目に見えてよくなっている数値など受診の度に書き込んでもらう。							栄養の大切さ、知識を増やす						
医師からご本人に栄養指導を受けてもらう様伝えてもらう									栄養サマリーを依頼する							
B														栄養サマリートの活用をする		
														相談機関の周知		
C					栄養サマリーやケア・ステーションについて、ケアマネ連絡会で研修してもらう。		県や市町村から栄養ケア・ステーションの利用方法の周知	情報公開	病院栄養士とケア・ステーションとの交流			既往症により必要なこともある。訪看、主治医、栄養士が連携をとる。	配食サービス、弁当の種類店のパンフレット配布。	認知症の理解を共有する。情報を伝える。		
					医師へ居宅療養管理指導の必要性の周知、医師会へ働きかける。		行政の栄養士から個別訪問	居宅療養管理指導の利用について周知				利用者で食事の課題あれば医師、ケアマネに栄養が提案。	そしゃく力、嚥下力の情報把握、共有していく	買い物、調理、経済面の支援。		
						行政 横のつながりで栄養指導の強化（高齢福祉⇄健康増進課）	医師への居宅療養管理指導の必要性を周知				介護サービス契約時に食事面を聞いてケアマネと対応協議					
ま	A	依頼先がわからない事、栄養管理内容が在宅に伝わっていない。栄養ケア・ステーションを知り、訪問指導を受けられる様に周知していく(医師会)														
と	B	他職種の栄養士の必要性の理解が低い。栄養ケア・ステーションの仕組みがわかりにくい(栄養士も理解していない)。栄養ケア・ステーションの存在を他職種に知ってもらうことが大切。														
め	C	病気の回復に栄養管理が重要であることを、本人・家族をはじめ、関係機関が認識を高める機会をつくり、多職種で連携や、顔の見える関係づくりを行う。必要な方を介護サービス利用へつなげる。														